

風水害

避難の心得

気象情報や災害情報をこまめにチェックし、できれば早めに避難の判断をしましょう。なるべく夜間の避難は避け、昼間のうちに避難するようにしましょう。また避難時は慌てず、近所の方にも声をかけて複数人で避難しましょう。

①避難の勧告・指示



避難の勧告・指示は危険が迫ったときに出されますので、すみやかに避難しましょう。浸水の起きる前に避難することが大切です。

②呼びかけに注意



窓を少し開けるなどして、役場、消防署、警察署からの避難の呼びかけに注意しましょう。

③避難場所を確認



避難する前に、避難場所を確認し、万一途中で家族が離ればなれになったときの集合場所も決めておきましょう。

④避難する前に



避難する前にガスの元栓を閉め、電気のブレーカーを落とし火事などの二次被害を防ぎましょう。
また、親戚や知人などに避難する旨を連絡しておきましょう。

⑤安全な避難



浸水があった場合は、溝や水路に十分注意しましょう。
また、がけ地などでは、土砂災害のおそれがあるので注意しましょう。

⑥車が浸水したらすぐ外へ!



水深が約30cm前後に達すると、車のエンジンが停止する可能性があり、水深と流速が増すと車ごと流される危険性もあります。車が浸水した場合は、すぐに外に出ましょう。

避難の方法

①2人以上で避難



できるだけ1人の避難は避けましょう。
また、子どもからは目を離さないようにしましょう。

②助け合って避難を



子どもや高齢者、病気の人などは避難に時間がかかるので、早めに避難させましょう。また、近所の人の場合も積極的に協力しましょう。

③安全に避難を



皆さんの住んでいる地域の事情に合わせながら、行政からの指示をよく聞いて車や徒歩で避難所へ移動しましょう。

浸水時の歩行に注意!!!

浸水した場合、水の流れがなくても歩ける深さの目安は、ひざ下(約30cm)くらいまでです。水の深さが腰まであつたり、浅くても水の流れが速い場合は無理をせず、高い場所で救助を待ちましょう。

雨と風による危険度



雨の強さと被害の目安



やや強い雨

1時間に
10~20mm未満

ザーザーと降る雨。
雨の音で話し声が聞き取れない。この程度の雨でも長く続く時は注意が必要。



強い雨

1時間に
20~30mm未満

傘をさしていても濡れてしまうほどどしゃ降り。
側溝や下水、小さな川があふれ、小規模の崖崩れが始まる。



激しい雨

1時間に
30~50mm未満

バケツをひっくり返したような雨。
崖崩れが起きやすくなり、危険地帯では避難の準備が必要。



非常に激しい雨

1時間に
50~80mm未満

滝のようにゴーゴーと降る雨。
マンホールから水が噴出したり、土石流が起こりやすく、多くの災害が発生するおそれがある。



猛烈な雨

1時間に
80mm以上の雨

息苦しくなるような圧迫感があり、恐怖を感じる。
気象庁から幌加内町へ「記録的短時間大雨情報」が発表される。



風の強さと被害の目安

*風速は10分間の平均風速です。最大瞬間風速は平均風速の約1.5倍~3倍以上になることがあります。



やや強い風

風速10~15m/s

風に向かって歩きにくくなり、樹木全体や電線が揺れ始める。



強い風

風速15~20m/s

何かにつかまつて立つられない。通常速度による運転が困難になる。



非常に強い風

風速20~25m/s

木が倒れ始め、屋根材や看板が落下・飛散し、道路標識が傾く。



猛烈な風

風速30m/s以上

多くの樹木が倒れ、走行中のトラックが横転したり、倒壊する住宅も出てくる。

いざっ! 「分散避難」について

「分散避難」とは、災害時に、自宅の2階や近隣宅、車内で待機するなど避難所以外へ避難することより、3密を防止し、感染症による2次災害を防ぐための避難方法です。また、自宅が危険な場合も、避難先は町が開設する避難所だけではありません。指定避難所は本来「自宅が被災して帰宅できない場合に、一定期間、避難生活を送るための施設」であるため、指定避難所が過密状態になることを防ぐためにも、これからは、「避難所」への避難以外に、「親戚・知人宅」「宿泊施設」「在宅避難」「車中泊」などさまざまな避難先に、地域の人たちが分散して避難することが大切です。

□自分の住んでいる場所が「避難の必要がある場所か」確認する。



□「親戚や友人、知人の家へ避難が可能か」確認する。



□「避難所には感染拡大のリスクがある」ことを再認識し、非常持ち出し品・感染防止物品(マスク、消毒液、除菌シート、体温計等)を準備し、安全確実に避難する。

